

ユーモアスピーチ船橋

2021 (R3) 年 4 月 8 日発行

ジョークは暮らしの調味料・ユーモアは人生のかくし味

174 回船橋ユーモアスピーチ

2021 年 4 月 8 日 (木) 3 分間スピーチ

スピーチテーマ 「エイプリルフール」
「望み」

ロングスピーチ

入江 清之さま

「渋沢栄一の青春時代における転身」

12 月 10 日の参加者：工藤、中久木、田谷、松永、大塚、はらだま、佐々木、常廣、入江、飯野、植野、町田、長嶋 13 名

主催：NPOシニア大楽

ユーモアスピーチ共和国・船橋支部

支部長：長嶋秀治 043-261-5832

発行者：長嶋秀治

編集&事務局：町田雅和

267-0066 千葉市緑区あすみが丘
5-26-7 T/F 043-294-2911

mac555new@ybb.ne.jp

参加費 500 円 (入会金 1000 円)

見学科 500 円

開催日と場所 (原則)

毎月第②木曜日 14:00~16:30

会場 KATANAオフィス船橋 5 階

前回のロングスピーチ

「佐倉 (臼井) と雷電為右衛門」

大塚 親雄さま

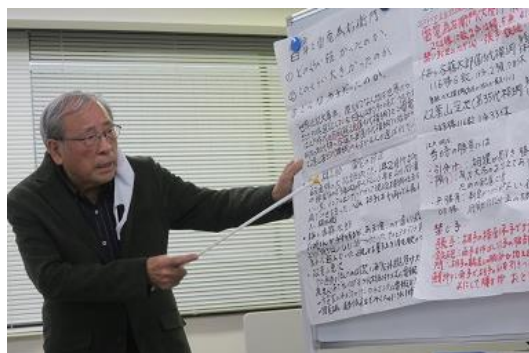
雷電為右衛門— その名前は、さして相撲に興味のない人でも、すばらしく強かった江戸時代の大力士としては知っている。

◎ 雷電のプロフィール

雷電為右衛門は本名関太郎吉。明和 4 年 (1767 年) 1 月、信州小県郡大石村 (現在東御市) の生まれ。父は半右衛門、母はけん。父は村相撲の大関格であった。幼少のころから怪童としてきこえ、この評判をきいて長瀬村 (現丸子町) の庄屋上原五右衛門が、学問と相撲を教えることで、手元にひきとった。天明 3 年 (1783 年) 大飢饉に見舞われ、夏には浅間山の噴火もあって、上信越地方は特に疲弊した。そのさいに巡業中だった江戸相撲浦風林右衛門の一行 60 数名が食うや食わずで上原家へころげ込んできた。この時太郎吉も本格的に相撲を覚える。浦風は第一人者谷風梶之助のもとに内弟子として送り込み天才教育を託した。修業中の太郎吉は、天明 8 年 (1788 年) 9 月、雲州 (島根県) 松江藩主松平治郷に抱えられ、藩にゆかりの四股名 ‘雷電’ をもらい雷電為右衛門となる。初土俵は寛政 2 年 11 月の江戸本場所。いきなり西の関脇に付け出され 8 勝 2 預りで優勝する。颯爽たるデビューぶりである。23 歳、197 cm、169 kg と伝えられる。その巨軀と異様なまでの強さが人気となり、谷風、小野川とならんで、寛政の土俵黄金時代を築き上げた。

◎ 恋女房 ~おはん~

雷電が臼井に寄ったのは巡業の途次でなく、成田詣ででしばしば行っていたようである。ふと「天狗」へ甘酒を飲みに立ち寄って、雷電はおはんを一目見て、この娘ならどこへ出しても恥ずかしくないと思ひ嫁に迎えたいと思った。でも 抱え力士は一応「士分」の扱いを受ける。だから勝手な結婚はできない。一介の甘酒茶屋の娘では具合が悪いので、日本橋の鬘屋の旦那が、自分の娘という事にして、雷電のもとに送り込んだ。おはんが「八重」にかわったのもその時で 2 人は江戸の麴町に新居を構えた。



◎ 晩年は人前に出なかった

文化 11 年雷電は致命的なトラブルに巻き込まれる。48 歳のとき事件と言うのは、赤坂報土寺が炎上したので、その再建のとき梵鐘を寄進した。当時寛政の禁令でご法度となっていたために、円意和尚は江戸払いとなり、雷電も押込め（屏居させて出入りを禁ずる刑）当時はなかなかの大事件だった。雷電が臼井にいたと思われるころ、雲州松平家から末娘（第四女）幾千姫が、佐倉藩主堀田家の八代目の正愛のところへ数え 17 歳で嫁いできた。文政 4 年のことである。当然挨拶に伺候してよいはずであるが佐倉で雷電が姫のところに訪問したようなことはない。

◎ 雷電顕彰碑

佐久間象山が同郷のゆかりで書いてくれた「天下第一流 力士雷電の碑」11 文字 雷電は相撲が超人的強かったばかりではなく文武両道で一流の人物であった。 と解釈する。

享年 59 全国にお墓は 4 か所ある。

- ・佐倉 浄行寺
- ・赤坂 報土寺
- ・松江 西光寺
- ・信州（生家）関家。

以上

3 分間スピーチダイジェスト テーマ 「一年を振り返って」

工藤 文夫：「今年を振り返って」

今年はすべてが、「コロナ」で終始しましたが、私にとっては 95 歳になる母が、2～3 月に入退院を繰り返し危篤状態だったため、二重苦の毎日でした。夏には医者の見立てとして、よく持って今年中、早ければ 8 月中には覚悟を決めておきなさいと言われ、慌てて葬儀屋まで予約をしたわけです。それから、電話が鳴るたびに、ドキッドキの毎日がつづきましたが、それが 12 月のはじめ、突然意識を取り戻し、私の顔を見て笑顔で手を小さく振るくらい回復したのです。あまりの変容ぶりに、諺の「終わりよければすべてよし」を思い出しました。

飯野 望：「今年の流行語」

クラスター、パンデミック、自粛、あまびえ、ファイザー、PCR 検査、モデルナ、ふわちゃん、あつもり、アベのマスク、時を戻そう、リモート、ウーバーイーツ、レムデシビル、キメツの刃、三密、タピオカ、アビガン、ゴーツイート、今日の感染者人数、キャッシュレス、などを取り入れた素晴らしいスピーチです。

町田雅和：「一年を振り返って」

コロナで自粛生活の一年だったが、自粛のお蔭で前々から気になっていたことができた。①開かずの扉だった、箱根寄せ木細工の小箱が開いた。（ネットの動画を丹念にチェックしたお蔭）、②4 面名刺が完成した“くるくる回すと元に戻る不思議なデザイン”（じっくり時間を掛け試作を繰り返したお蔭）③推定 8 歳の保護犬“チワワとミニチュアダックスの混血”が来た。（自粛で出かける機会が減ったお蔭）



松永 成三郎：「一年を振り返って」

この一年はコロナに明けコロナで暮れる年になりました。最近の情報によると、これまでの日本全体の累積患者数が約 18 万人ですが、アメリカでは何とこの同じ数の数が毎日発生している状況です。これには種々の原因が考えられますが、まず日本と違って国民の健康保険加入率が少なく軽いうちに診療を受ける人がすくないこと、新型コロナは無症状ないし軽症の患者が圧倒的多いため、の感染が広がりやすい事などが挙げられます。英国では昨日からワクチンの接種が開始されましたが、間もなく日本にも導入される筈です。来年はこの疫病が早く収束に向かって明るい年になりますよう期待しています。

中久木 一乗：「1 年を振り返って」

12 月 10 日は、120 年間続くノーベル賞の資金を利子で賄える大金を残した、ダイナマイトの発明者：「ノーベル」の命日。彼は地球の古い科学を爆破したが、今年、新型コロナは旧来の慣習を吹き飛ばした。今年の私はコロナで半分、老熟で半分翻弄された。

①「なんといっても怖い恐ろし COVID19 新型コロナ感染症」で、真相不明が多くて、「戦況不明 大本営発表も 信じない」毎日で、「イベントなし 会議なし 会食なし」の結果として、「おかげ様 腹出て脚痩せ 懐膨む」の自律に欠けた年だった。

②「躊躇なく確実に歩む老熟現象」は、情けを知らぬ極悪人で、抵抗しようにも「ものわすれ 防ぐ薬を 飲み忘れ」の状況。肉体は「目は弱り、歯は嚙めなくて、筋肉弱る」で、感覚も退化し「数えるたび増えては減る千円札」状態で、ついに 12 月には、「脳悪く 人相悪くて たち悪い」の 3 悪に追従することとなった。

長嶋 秀治：「一年を振り返って」

先週の月曜日（11 月 30 日）夕方 38 度の体温にびっくり。病院に駆け込む。結果が出るまでひょっとしてコロナに感染の疑いがあったら、このまま救急車で入院かなと不安が頭をよぎった。別の原因で発熱とのことで薬をもらって帰ってきた。この 1 年コロナの影響でいろいろと予定が狂ってしまった。主なところでは月 1 登山は今のところ 5 回。2 か月に 1 回のゴルフは 2 月の 1 回のみと。などなど不完全燃焼の一年になってしまった

入江 清之：「コロナ騒動を振り返って」

日本でのコロナ騒動が始まったのは 2 月 3 日に横浜港に帰航したクルーズ船でコロナ感染者が出てからです。その後感染者の急増で安倍総理は 3 月 2 日からの学校の臨時休校を要請し、24 日には東京五輪の延期も表明。29 日には志村健さんがコロナ感染による肺炎で、70 歳で亡くなると正体の知れないウイルスに対する不安が社会全体に広まった。その後も感染者が拡大すると安倍総理は 4 月 1 日に外国人の出入国規制を実施、7 日には首都圏 7 都府県に対し緊急事態宣言を出し、17 日にはそれを全国に広げたが、感染は終息せずに 8 月に感染の第 2 波、そして先月の 3 連休後に、その第 3 波が押し寄せ、我々は今我慢の 3 週間の只中にいる。コロナ騒動は GO TO NEXT YEAR!!



田谷 正明：「今年を振り返って」

コロナ一色の1年だったが我が家の大事件は「ドラム式洗濯乾燥機」を買ったこと、余命いくばくもない老夫婦が一体なぜ・・・雨が多かった今夏、洗濯物を室内干しすることが非常に多かった。湿度が高いため扇風機をブンブン回してもなかなか乾かない、そこで日に2度も3度も洗濯物を入れ替えたり裏返したり・・・孫を連れて泊まりに来ていた娘がそれを見て一言「お父さん。。。随分ヒマね～！うちは乾燥機で楽だよ」。その「ヒマね～！」の言葉に父親としての尊厳というか威厳を失墜させられた。慌てて翌日、ヤマダ電機に行って購入・・・しかし年金生活である我が家はそれからというもの、夕食は決まって「納豆と生卵のみ」、たまにメザシ・・・爪に火をともし生活を強いられています。

植野 晏生：「手乗り文鳥」

犬猫の寿命は私の平均余命より長いので、手乗り文鳥の雛を飼い始めました。名前はラビ、あだ名は「越後屋」（ソチも悪じゃのうの意）。ところが雌の疑いが。∴アイリングとくちばしがピンク、さえずりの練習がない。飼い主をパートナーと思って卵を産み続け衰弱死の心配あり。

大塚 親雄：「一年を振り返って」

何ヵ月かまえになるが朝日新聞に中学生が投稿された記事があった“1分間スピーチで得たもの三つ”一つ目は仲間だ。スピーチした話題に興味を持って話しかけてくれる人がいた。それからすっかりその仲間と意気投合し話が弾んだ。二つ目は自信。紙に書いた内容を見ずにあまり緊張せずに話せるようになった。三つ目は、いろいろな趣味がある人と出会えた。仲間のスピーチで気になったものをインターネットで調べていくうちに、知らなかったことが分かり、楽しくなった。これからも、聞いている人が楽しめるようなスピーチをしていきたい。う～ん 「一年を振り返って」この中学生のような考え方を忘れていたような気がしてあらためて“初心忘れるべからず”を思い知らされた



予告：5月 「船橋ユーモアスピーチの会」

5月13日（木）14時～ KATANA オフィス船橋

ロングスピーチ

中久木 一乗さん「コロナ禍のマジック講習会（仮題）」

石渡 巧さん 「定年おやじのジタバタ記」

スピーチテーマ 「五月晴れ」、「前進」